

# 独逸文學

60

2 0 1 6

関西大学独逸文学会

## 独逸文学 60号 目次

### [研究論文]

宇佐美幸彦

アードルフ・オーバーレンダーと

ミュンヘン・ビルダーボーゲン…………… 1

金城ハウプトマン朱美

森鷗外「甘暝の説」とマルティン・メンデルゾーン

「安楽死について」の比較考察…………… 47

芝田 豊彦

Bei-seinの用法について

— 遠さと近さの逆説性 —…………… 77

### [翻訳]

工藤康弘・田島篤史(訳)

イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554年)(3)…………… 101

### [研究発表概要]

米村 恵吾

ドイツ-トルコ系移民文学研究の歴史…………… 115

金城ハウプトマン朱美

日独における安楽死問題の先駆者

— 森鷗外とマルティン・メンデルゾーン…………… 116

Andreas Hartmann

Die Magie der Zunge. Geschmack, Gedächtnis und Kultur.

(Vortrag)…………… 116

### [エッセイ]: 私たちのドイツ留学体験記

島田 亮佑: ドイツと日本…………… 119

藤城 左和子: 長期留学で体験できた様々なドイツ語発音…………… 121

2014年度卒業論文紹介	125
2015年度卒業論文題目一覧	131
関西大学独逸文学会記録	132
関西大学独逸文学会2014年度会計報告	135
『独逸文学』第61号執筆申し込み要領	136
関西大学独逸文学会会則	137
関西大学独逸文学会会員一覧	139
執筆者紹介	140
『独逸文学』執筆要領（改正版）	141
編集後記	149

# DIE DEUTSCHE LITERATUR 60

## INHALT

### [Abhandlungen]

<i>Yukihiko Usami</i> : Adolf Oberländer und der <i>Münchener Bilderbogen</i> ...	1
<i>Akemi Kaneshiro-Hauptmann</i> : „Über die Euthanasie“ von Mori Ogai und Martin Mendelsohn —Eine vergleichende Betrachtung .....	47
<i>Toyohiko Shibata</i> : Zum Gebrauch des „Bei-seins“ — Paradoxie der Ferne und der Nähe — .....	77

### [Übersetzung]

<i>Yasuhiro Kudo, Atsusi Tajima</i> (Übers.): Jörg Wickram, <i>Der jungen Knaben Spiegel</i> (1554) Nr.3 .....	101
--	-----

### [Resümee der Referate bei der Tagung 2015]

.....	115
-------	-----

### [Essays]

Unsere Erlebnisse in Deutschland .....	119
--	-----

\* \* \*

Vorstellung einiger Diplomarbeiten 2014 .....	125
Titel der Diplomarbeiten 2015 .....	131
Protokoll der Gesellschaft für Germanistik der Kansai Universität (Januar bis Dezember 2015) .....	132
Finanzbericht 2014 .....	135
Zur Beitrags-Anmeldung für <i>Die Deutsche Literatur</i> 61 (2016) .....	136
Satzung der Gesellschaft für Germanistik der Kansai Universität .....	137

<b>Liste der Mitglieder der Gesellschaft für Germanistik der</b>	
<b>Kansai Universität .....</b>	<b>139</b>
<b>Liste der Verfasser dieses Bandes .....</b>	<b>140</b>
<b>Bestimmungen über die Form der Manuskripte für</b>	
<i>Die Deutsche Literatur</i> (Neue Fassung) .....	141
<b>Nachwort der Schriftleitung .....</b>	<b>149</b>

## 編集後記

【独逸文学】60号をお届けします。

前号の記念号に多くの原稿を寄せていただいた影響でしょうか、本号は比較的薄い学会誌になりました。しかしながら本号には念願の【独逸文学】執筆要領（改正版）を掲載することができ、この記念すべき60号（！）はこれからもしばしば参照されることになるでしょう。またドイツ・ベルリンから寄稿してくださった金城氏の論文は、鵬外関係の新資料発見と関連し、Germanistik だけではなく、鵬外研究にも寄与するものと思われます。

来年度も記念号になりますので、奮ってご寄稿をお願いいたします。

編集委員：宇佐美幸彦、柏木貴久子、工藤康弘、芝田豊彦

### 当学会誌の編集方針

1. 本学会誌の内容はドイツ語圏の言語・文学・文化およびドイツ語教育に関する論文、マルジナリア、書評、翻訳、エッセイなどとし、原則として会員からの投稿とする。ただし、編集委員会が会員以外に特別に原稿を依頼することがある。その他に、シンポジウム報告、修士論文要旨、学生の優秀論文要旨、卒業論文題目一覧、本学会の行事記録、前年度の会計報告を掲載する。
2. 投稿原稿の採否は編集委員会が行う。その場合、査読を編集委員以外に別に委嘱することがある。
3. 執筆要領は別に定める。
4. 投稿希望者は予定題目とその概要を期日までに編集委員会宛にあらかじめ提出しなければならない。詳細は次号執筆申し込み要領を参照のこと。

独 逸 文 学 60	
2016年3月20日 発行	関西大学独逸文学会
編集兼 発行者	吹田市山手町3-3-35 関大独文研究室内 電話・大阪(06)6368-0324
郵便振替口座	00910-5-116831
口座名称	関西大学独逸文学会
印刷所	株式会社遊文舎

(非売品)

# **DIE DEUTSCHE LITERATUR**

**60**

2 0 1 6

**Gesellschaft für Germanistik  
der Kansai Universität  
Osaka Japan**